転生した社畜は異世界でも 無休で最強へ至る

丁鹿イノ





CONTENTS



絵・本文イラスト 風花風花

ズ "

また頭痛か

ここ最近、 頭痛の頻度が増えてい る。 病院に行 った方が V 11 とは思っ 7 11 るが

口 ジェ クトが 一区切りつくまで休みはとれそうもない

そんなことを一年前から思い続けている気がするが、

気

0

深夜二十三時、絶賛仕事中。今夜も帰れそうにない

恒さーん! 1) ポビタンG買ってきました!」

この子は部下 の結衣ちゃん。 僕が研修担当した後輩で、 の直属ではなくなったのにも

拘わらず未だに何かと手伝ってくれる優しい子だ。ダ

「あり がとう、 助かるよ。 もう遅い 時間だし、 本当に先に帰っ T 13 Vi

夜ですか? 17 いんです! 私もたまには恒さんとお泊まり……じゃなかった、 私がやり んくてやってるんですから! あの、 ところで おつきあいしたいなー 恒さん今日も 徹っ

なん て....

お泊まり会みたいな軽 13 ノリで言 5 てるけどお仕事だから ね?

「結衣ちゃんまで巻き込むわけにはいかないから、 頼むから帰って休んで」

ください 小さい ·ね? 頰を膨らませて舌を出す結衣ちゃ 恒さんのケチ!! 恒さんが倒れたら、うちの会社なんてすぐに倒産 わかりましたよー、帰りますよ ん。 可かかい 13 顔をしてもダメなものはダメだ。 しちゃいますから!」 恒さんも少し は休んで

はいは い、心配してくれてありがと」

「むうう……じゃあ先に帰りますね……お疲み n 様です 0

おつかれ

結衣ちゃんを見送り くられ ソ コンと向き合っ 7 11 ると、 突に頭の奥が痛みだした。

ズキンッ

·、少し頭 13 …バ フ オ 1] ンでも飲んでおくか。 どこにしまって おい

-ズキン

-ズキン

プチン

17 #

0 ツ

なんだ……今 · の
…

痛い 痛い 痛 17 痛 い痛 り刃物でえぐられれい痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛いない 13 痛 13 痛 13 痛 13 痛 13 13 痛 13 痛 13 痛 13 痛 13 痛 13

61

頭を何度も内側からッ発狂する....!! れるような痛み。 あまり \hat{O} 痛 みに呼吸がままならな 13

痛すぎる!!

死ぬ

マジで死ぬ

vy ピガ ガ ガ ガ

なんだ……これ

あ あ あ あ あ あ あ あ あ あ あ あ !!! ····・あっ

薄みあま つ てい く痛み。 あれか、 痛すぎて脳が痛みを遮断 したとか

痛みは薄まって少し冷静になってきた。 身体は、 指先一 つ動かな V

痛みは引い ていくが、 感じる。 自分の命が失われ ていくことが。

プチンとかい っていたもんな、 脳の血管でも切れたのかな。 最近リポビタンGとか、 力

えるとそり 口 1] ブ D " Þ 死ぬ クとかしか食べていなかったしな。 いわな。 睡眠も全然取っていなかったし、

ij ガ ッ ŕ

ガ

ところ で先ほどから 変な音が聞こえるんだけど、 なんだこれ?

ñ 0 つある意識 の中、 壊れたテレビのような雑音が頭の中に鮮明に響き渡る。

.... ザ Ŧ ッ

今後、 解析 システム言語は主言語での再生とな により、 システム言語の解析 IJ に成功し ます。 ŧ

・ファ

7

驚きにより 一瞬だけ覚醒しそうになるも、いっしゅんができない。ないは、かっというになるも、ッ? やはり徐々に意識が薄れてい

あぁ

8.....死

青桐 恒 !の心肺停止を確認しました。 リンネシステムによる魂の転送を開始します。

ぬ直前の幻聴とか……だったのか……な…………。

第一章 ◆ 社畜転生

暖かい……ここは天国か……?

ることだけは何となく分かる。 い瞼を気合い でこじ開ける。 なんとか焦点を合わせていくと、。視界がボヤけているが、なんだ くと、目の前に妙齢の綺麗な女なんだか白くて明るい場所にい

性が見えた。全く見覚えのない女性だ。

むしろ言い知れ しかしこれ程綺麗な女性に抱きしめられてい 顔が異常に近い。近すぎる。 ぬ安心感を抱いている。 ح 彼女から感じる体 0 温も ると ŋ, 17 b うのに、 か 温 て抱きし がとても心地 なぜかドキド 8 6 n 11 キは 11 7 しない る

外部からの『気力』の流入を確認しました。

気力 の流れ の解析に成功 しました。 スキル 操気 を獲得しました。

じよ	\neg	
うきょ		÷
じようきよう		:::: は?
		3
	Ļ	今、
-		な
しんわり		んか
(ボ
		ļ
		力口
		イ
		K
		の書
		み
		た
		ひ
		人
		Ι.
		的な
		る音
		声
		が問
		Ž,
		なにかボーカロイドの声みたいな人工的な音声が聞こえなかった
		かつ
		た
		3

る のかさっぱ 況 か 理解 り理解できな できず困惑す Ź V) 单 女性がなにか語 ŋ かけてきてい た。 しか し何を言っ 7 13

顔という、 女性と同じくらいの 非常に器用な表情をして 年齢の 治細身の)男性が いる。 大声 厂をあげ ながら近づ 11 てきた。 泣きながら 笑礼

そして女性の手から男性の手に、 僕が渡される。

. ん? 渡される?

男性の大きな声 が耳にキー ・ンと響く。 なんだこのうるさい人は!

これは……まさか……漫画やラノベでよくある、 耳を塞ごうとした自分の手が、 ふと視界に入った。 前世の記憶を持ったまま転生したとい 小さい。 女性と男性を見る。 大きい

うやつか……? そんなこと、 現実にありえるの か・・・・・・

外部 からの 『魔力』 流入を確認しま

『魔力』 の流れの解析に成功しました。 スキル 『魔力操作』 を獲得しました。

抗えなうん。 V 7 .眠気に誘われながら、僕は現状を伝さす。 なんとなく分かった。ここ、うん。 僕は現状を悟 こった。

ファ

ン

タジ

の……世界だ……。

な顔立 ちの女性が隣で寝て 13 る。 母だ。

目

が覚めた。

ここは会社……ではなく、

Š か

Š

か

0

ベ

" ド

0

中。

そして

凜り々り

は な顔で僕を撫で (ながら、 微笑んで V る。 つられ て僕も笑みをこぼしたところ

で、 F. アを開け放ち男性が早足でベ ッドへ近づ いてきた。

\$ このテ はそんな父を苦笑しつつも微笑ましそうに目を細めて眺めていた。うるさいが、 哀想なので返事をしてお シシ ョンが上がりすぎて大きな声 一で語 ŋ か けてきて いる 男性は、 父だと思われ シカ る。

あ ーうー

11

Á 舌がうまく回ら な 13 0 歯 が WD 13 it れど、 生まれ ていきなり喋る赤ちゃ んとか不気

今まで色々な国のクライアントと仕事をしてきたが、 味で仕方ないし、 それにしても、 話せたとしても隠すしかなかったと思うと特に支障はな 転生か……父と母の話す言語は、 どうも地球のものではないと思われる。 こんな言語 は聞いたことがない。

またこの部屋の設備。 調度から貧しさは感じないのに、 電気設備や機械がない。どうや

5 しかも死ぬ前と寝る前に聞こえてきた声。 科学技術が発達していない ようだ。ランプて、 聞き間違いでなければ、スポーキながでなければ、スポーキながでなければ、スポートプで、いつの時代ですか? スキ ルとか魔力とか

聞こえた。 学生時代によく見ていたアニメやライトノベルの中ではよくある設定だけれど

…やはりここは異世界なのだろう。

ていると思われる。 今までの記憶を辿ると、どうやら僕は 僕が正気であれば、 『解析』『操気』 の話だけれど。 『魔力操作』 というスキルを所持

スキ 所持スキ ル 解 ル ٠. 析 :『超耐性』 により、 『解析』 対象者の所持 [操気] スキル 『魔力操作 を確 認 U ま

…だと:

あまり のファンタジ さに目眩が…… 13 や それはもう納得

の流れだと、 スキル の詳細を確認することもできるのではないだろうか。

スキ により、 対象スキルの効果を確認しました。

『超耐性』:常時 発動型スキル。 状態異常などの対象者へ の悪影響に対する

非常に強い耐性。 任意で発動を停止することが可能。

『解析』:任意発動型スキル。対象物の構成要素や詳細を解析する

『操気』:常時発動型スキル。 気力の感知、操作を行う。

『魔力操作』:常時発動型スキル。魔力の感知、 操作を行う。

『気力』:体内で生成されるエネルギー。 主に身体能力強化に消費される。

『魔力』:大気に存在する魔素を吸収することで、 体内に蓄積するエネルギ I

主に魔術 の発現に消費される。

ŋ ル の詳 **!細を確認することもできてしまった。**

そし どうやら てやは [超耐性] り一番気になるスキルは、 なるスキルも知らぬ間に獲得していたようだ。 『魔力操作』 だ。

前世には所謂気功というものは存在 していた。 しかし魔術は違う、 完全にファ

の代物だ。

たし、 Vi そんなオカルト 前世にも存在してい はありえないとすら思って たのかも知れな 13 が少なくとも僕は実際に見たことはなか いた。 0

しかしこの世界には魔力や魔術があるという。

年甲斐もなくワクワクするぞ!

早速集中し、 するとすぐに熱を帯びた何かが体内を巡 体内にある魔力を感じ取ろうと意識を身体の内に 向けて瞑想する

生前よりも明確に流れを感じることができるのは つって いる のを感じ取れた。 『操気』 スキルの恩恵だろうか これは気力であろう。

そして気とは別の、なにか身体にまとわりつくような、じわじわと胸の辺りから滲み

ているようなものを感じる。 これが魔力か……。

魔力と思われるその力を、 意識的に動かせないか試 してみ

力を込め 動きそうな気配はあるが、 てみた。 すると胸の奥から一気に何かが引っ張り出され すごく重い……。 もう少しで動きそう る感覚に襲われた。 な気が して

これが魔りょ……う……吐きそ……。

魔力が動く感覚とともに視界が明滅 僕は意識を失った。

取ることができるからだ。 なくなった。 ていた。なぜ両親の目を盗んでいるのかというと、 そんな日々を半年も過ごしてい れから毎 Ą やることもないので両親 赤ちゃ んが ると、 いきなり魔力を操作していたら気味が悪いだろう。 『魔力操作』 の目を盗んでは 近くに の練習を行っても気絶することは少 いると他人の気力や魔力も感じ 『魔力操作』の練習を行 い続け

あまりに暇なので半年間 『操気』 لح 『魔力操作』 の練習をひたすら行っ 7 11 たお陰か、

今では気力と魔力の保有量はかなり 増えて V る。

それに しても前 |世ではそれこそ死ぬほど働きまくってい いたので、 こんなにゆっ ij

た時間を過ごすの は久しぶりだ。

とい 働かずに日々を過ごすことにもどかしさを感じ っても、ただ毎日を無為に過ごしているわけでもない う 0 \$ 々 の連休を僕は満 13

言語を覚えなければ 例えば最近は 少しずつこちらの言語を習得できてきている。 11 けなか ったため、 言語習得は得意なのだ。 世 0) 仕事では様 Þ

な国

0

さすがでに読 もちろん自分ひとりの力ではなく、 ¦んでくれた母さんの尽力の賜物でもある。| 分のとりの力ではなく、毎日しつこいくらい絵本をせがみまくっても嫌な顔のでいたの力ではなく、毎日しつこいくらい絵本をせがみまくっても嫌な顔

流石に肉体が未熟なので上手く発音することは中々難し 13 け 簡単に意思を伝える

くらいなら可能になった。

「ただいま! 今日はラビをとってきたぞー 1 P 0 n ŋ Ú 難し 11

「ありがとうあなた。私の大好きなラビのお肉ね!」

らは父さんが代わりに狩りをしているようだ。母さんに比べると狩 どうやら僕が生まれる前は母さんが食材を調達していたようだけ 頑張ってくれていることには感謝しかない。 れど、 りは苦手な 僕が生まれ のにも

僕はまだ離乳 食しか食べられない のだけれども。 肉 が 恋 11

「ありあお おとーあん!」

げるからなぁ 天才だっ!! 「シリウスぅぅぅ!! お礼を言 V シリウスももう少し大きくなったら父さんが狩ってきたラビを食べさせてあ あ つつ父さんにたどたどしく歩み寄る。 あ!!!! も、もうお父さんって呼んでくれるなんて……。 n b 地 道なト やっぱ ニング りこの子は

僕を抱き上げて泣き喜ぶ父さん。

行っているに違い や違う、すごい魔力を感じる。 普段身に纏っている魔力でこの強さだ、

気力は生前にも馴染みがあったおかげで身体強化に使うことができるように 実は、転生直後から魔力は大分増えたが僕はまだ魔術 が使えず Vi

な

0

だ

が、 魔術はどうすれば使えるのか見当がつかないのだ。

魔術に精通していると思われる父さんに聞いてみるか……とも思ったのだが、 適当にメ○とかファイ○とか唱えてみたが、 うんともすんとも言わ な 1/3

リスクが高すぎる

しかしそれでも、 早く使ってみたい 魔力訓練をしていたことがバレる。 0

·されるだろうし、

から鍛錬 した方が伸びが早い。恐らく魔術も同じではな , , 音楽、武術などは知識 0 吸収が早く、 身体が成長 いか、と僕は考えて ĩ て いく子ども

仮に詠唱や魔術陣などを覚えるとしても、 頭が柔らかい内に覚えるほうが有利

、どうやって魔術を習得するのか。

の部屋に魔術に関する書物がある のではな 13 かと見 7 V

たが、 生後まもない頃に父さんに抱かれて入ったときは文字が読めなかったの 分厚い 本が 近置 13 てあったことは覚えている。 父さんの ベ ルに よっ で分分 ては入門 からなか 0

こればかりは仕方ない 背表紙が読 Ź Ĭ \bar{O} めな 昼 頃、 いものも結構あるが、まだ完全に言語をマスターしたわけではないから 母 さんが昼寝してい る間に父さん の部屋に忍び込み、 本棚を見回す。

とりあえず自分の背で届く、 一番下 の段にある背表紙 がボ ロボ 口 な本を手に取る。 その

本の表紙には 『初級魔術教本』と大きく書かれてい た

おっ!もの凄く丁度良い本じゃないか!

本を床に置き、古い紙がちぎれないように慎重にページを捲っ てい

進めたが、 やはり魔術に関する基礎的な内容が記された本であった。

現する現象を分類するものを属性と呼ぶそうだ。 曰く、魔術は行使難易度から、 一般的には初級、 中級、 上級、 特級と分類され

が容易である詠唱を用いた魔術行使が主となっているようだ。 使を可能とするために詠唱や魔術陣が開発され、現在魔術が広く普及するに伴い 象を引き起こすための術式の構築が必須であると。 て魔術行使には対象となる現象に対する深い理解や具体的 術式構築の補助を行い な想像力、 効率的に魔術行 そし てその 口頭伝承

『初級魔術教本』を読み、 適当に魔術が放 てないはずだと納

魔術への理解もない、 術式も構築してい ない、それでは何も発現しなくて当然だ。

しかし流石は初級の魔術教本である。

術式の構築方法が易しく書かれておりとても分か ŋ やす 13 0 大学卒業程 度の 数学知識

あれば簡単に理解できるような内容だ。

とりあえず今回は初めての魔術だし、まずは詠唱で補助をして発動してみよう。 実際、この世界で魔術というものを見たことがない のでイ メージも出来てい ない か b 補

助は必須だろう。

僕は 本当はもっと派手な魔術を使ってみたかったけれど、 『光明』という小さな光を灯す生活魔術の のページ を開 コント 13 口 7 魔術教本を床に置 ル できるか

い攻撃魔術を父さんの部屋で放つわけにもいかない。

それに最も初歩的な魔術だし、 僕は滲む汗を拭った手を前に差し出し、 証拠も残らないし、 目を瞑り集中した。 8 ての 魔 術には最適だろう。

カ

ツ

ッ

詠唱を終えると同時に、 凄まじい閃光が僕の掌から迸った。

「めがあ ッ !?

凄まじい閃光に瞳を焼 かれ、 両目を押さえてゴロ ゴロと床を転がる。

そして一気に半分近くの魔力を失い 、そのまま横たわった。

虚脱感が凄いが、 意識を失うほどではない。ただし目は死んだ。

原因は自覚している。 本来は生活魔術であり殺傷力がなく暗闇を照らす程度の魔術が、 まず、魔力を込めすぎた。本気で指先に魔力を凝縮させてしまっ これでは閃光弾だ。

7 いたのだ。そして、全力で光るイメージをしてしまった。

本当に発動するか不安だったから、 と言い訳をしてお

虚脱感に襲われつつも起き上がり、 再チャレンジをする。

11 光は放たれず 魔力を調整し指先に少しだけ纏わせてランタン程度の光量をイ に仄かな光が指先に灯った。 X

ス + ル 『初級光魔術』 を獲得 しま

成功だ……!!

今度はきちんと成功 したからか、 スキルとして認められたようだ。 魔力消費量は先ほど

の二十分の一程度で十分であった。

最初の魔術行使はどう考えてもやり **すぎだったな。**

その後も何度か 『光明』を発動し、 魔術行使の魔力量とイ メージ 0 j ツ を摑る h で 11 つ

そして何回か試行していると、 術式が意外と単純なことが解ってきた。

初級魔術だし当たり前か。 試してみよう。 この程度の術式なら詠唱がなくても余裕で 11 けそうだ。

指先に光が灯った。 集中し術式を頭で構築する。 成功だ! そして魔術名を心の中で唱えるとスムー

ズ

ガ タ ""

ス + ル 『詠唱破棄』 を獲得 しま じた。

外れるかと思うくらい ス 千 ル 取得 0 お知ら 、せと共に後ろで物音がしたと思いサッと振 口をあんぐりと開けた父さんが立ちす くんでいた。 り返ると、 そこには顎が

……やっちまった……。

······う?

僕は何も知りませんと純粋に不思議そうな表情を作る。必殺、あどけない幼児のポーズ。

そんな僕の円らな瞳と父の見開いた瞳がぶつかり合う。

シ....

「……あう?」

「シリウスが魔術を使っ たあ あ あ あ あ !? か b 詠唱 b してない !! 俺の息子は天才魔術

師だぁ ああああ!!」

父さんは僕を持ち上げ で叫き びながらグ ĺV グ ルと回り 始めた。

声でかい、耳が痛い、 目が回る。

その後、 暫く騒い で 11 た父さんの声を聞きつけて駆けつけた母さんが父さんをはたい 7

僕を助け てくれた。

うん、今度から魔術の練習をする時は細 心 の注意を払おう。

母さんの胸の中で、 僕はそう決意した。

第二章 戦 闘

この世界に転生してから、 もうすぐ六年になる。

ていた近所の道場で行っていた鍛錬を積んでいた。また時々父さん 僕は日々、 薪割りや畑仕事、家事の手伝いをしつつ、その合間に前世で学生時代に通っます。 の部屋に忍び込んでは

魔術書を読み漁ったり もしていたかな。

き、 あれから初級魔術はマスターし、今では中級魔術書を読 術式を解析 しながら試行錯誤しているため習得速度は遅々としたものであるが着実に 込み進め ている。 魔術 書を読み解

使える魔術は増えているし、 魔力も増えてきている。

早 1, 父さんと母さんから魔術や剣術を習えればもっと早いと思い頼ら 危ないと却下されてしまった。 んではみたのだが、 まだ

実はこっそり森で弱い魔物を狩って経験を積 んでいるんだけど、 これは 秘密だ。

とはなかった。どんな子なのだろうか。

席に着くと、父さんが嬉しそうに口を開い っそり森に行っていることがバレていやしないかと内心ヒヤヒヤしつつも平静を装い た。

ぞ。どうだ、行ってみないか?」 シリウスは既に知ってることも沢山あると思うが、 には教会があってな、村の子どもはそこで色々なことを学ぶ 「シリウスももうすぐ六歳になる、早いもんだ……。 同い年の友達もできるし楽しいと思う 知っ 7 んだ。 いるか いつも本を読んでい Ë Ū ñ ない この る

さんもシリウスが一緒なら安心だって言ってくれてるのよ」 「お隣のララちゃんも同い年だから」 緒に通うことになるわ ね 覚えてるかし 5 お

ないし、 教会か……地方の小学校みたいなものかな? 他の村人とのコミュニケーションも必要だろう。 この世界の 知識 をつけるに越したことは

「うん、 行ってみたい! いつから?」

「おぉ、そうかそうか! 神父様には明日伝えるか 5 来週からでも通えるだろう。 明日

神父様に挨拶がてら必要なものを買いに行こう」

「分かった!」

父さんと母さんは満足そう に頷き、 微笑んでい

とりあえず、 森に行っていることはバレてはいないようで一安心だ。

クティー色の髪のほんわかとした印象の少女が立っていた。 軽く朝食をとり、 父さんと家を出る。家の前には、 ゥ I ・ブが か

引きつけるような魅力を醸し出している。 した雰囲気ではあるが愛らしく整った顔立ちをし 将来は多く の男を魅了するであろうこの美少女

ており、

不思議

少女はおっとり

は、お隣さんのララちゃんだ。

ララちゃんとは両親と一緒に何回か顔を見たことがある程度で、 今日は父さんがララちゃんも一緒に神父様 への挨拶に連れていくそうだ。 まともに会話をしたこ

こんにちは! レ グルスさん、 シリ ウスくん、 今日 はよろ 、お願 13 つ

..... 噛んだ。

恥ずかしそうに俯くララち ゃ ん。 癒やされるなあ

「はい、こんにちは。 今日はよろしくね。こっちがララちゃ んと一緒に教会に通うことに

なるシリウスだ」

25

「ララちゃん、 僕が軽く会釈をすると、 こちらこそよろ ララちゃ しくお願 んは顔を赤く染めたままこくこくと頷 13 します

いた。

なぜか斜 教会へ向かい歩き出すと、 め後ろ辺りからじーっと見られており、少し落ち着かな ララちゃ んは僕の少しだけ後ろをちょこちょこと歩い

チラッと後ろをみると、ララちゃんの円らな瞳と目が合った。

シ、 「えーっと、本を読んだり、家事の手伝いしたり……かなぁ。 シリウスくんはお家でいつも何してるの?」 ララち や んは何してるの?」

まさか鍛錬だとかは言えない ので、 無難に返しておく。

これも嘘ではない。 読書といっても主に魔術書だけど……。

「ほえ ……私も絵本好きなの! 『ネココのおうち』 が 一番好き! シ IJ ゥ ん読

だことある?!」

へえー、その本は初め て聞いたよ。 今度読んでみるね!

うん! 今日帰ったら貸してあげるね! えへへ

「ありがとう、 楽しみにしてるね」

そんな取り留めのない会話をしていると、 . の穏やかな顔立ちの金髪男性が出迎えてくれた。 また ない 会話をしていると、すぐに教会に到着留めのない会話をしていると、すぐに教会に到着 た。 教会に入ると、

代前半くらい

「神父様、こんにちは。この間話しました、うちの息子とロジ ヤ の娘のララちゃ

二人共、 この方が教会で色々と教えてくれる神父様だ」

「はじめまし て、レグルスの息子のシリウスと申します」

ては、 はじめまして! ララですっ!」

「はじめまして、二人共これからよろしく お願 LJ.

「「よろしくお願いします!」」

「ふふ……シリウスくんもララちゃ んも礼儀正 しい子ですね。 レ グル スさん、 お二人をお

預かりするのは来週からで良かったですか?」

「はい、来週からでお願いします」

そうして僕らは教会に持っていく黒板とチョーク等を購入し、 帰路に 0 いた。 その

の後ろにはララちゃんがくっ 0 Vi ており 質問攻めにあっていた。

子どもは好奇心旺盛だね。

て教会に行く日、 また家の前でララちゃ んと待ち合わせして行くことにして

ララちゃん一人では心細かったそうだ。

27

子ども二人では危ないだろうとも思うのだが、 村 0 单 にはほとんど魔物 は 出 11

な村なので変質者などもおらず、 また両親が僕を信用してくれてい 平和そのものなので問題はないようだ。 るということもあり、 初

ことになった。 から二人だけで教会へ行

「シリウスくんとおでか it ĺ ふん パふん♪」

鼻歌を歌いながら楽しげに歩くララちゃん。 微笑まし

「 あ ! シリウスくん! 『ネココのおうち』読んだ?

ネココ可愛か

「あぁ、 貸してくれてあり りがとう、 読んだよ! 0

「ネココ可愛いよね!! わたしはモココも好きなのー!」

主にペ ネココは猫のような魔物で、モココは羊のような魔物だ。 ットや家畜として飼われている。 戦闘力はほ

世界では、

魔物は外敵でありつつも重要な食料源ともなっ てい る のだ。

に入った。 ララちゃ んと絵本につ いて話をしているうちに教会に到着し、 神父様に連れられ

つけてグループになっているようであった。

連れて行かれ

た教室には六

十歳程度の子供たちが二十

-人程お

ŋ,

学年ごとに机をく

僕たちが新入生のための島に着席し他の子たちを待っていると、 ポ ツポッと子どもが

まって席が埋まった。

ださいね。それでは新しい子たちから、自己紹介をお願いします。 「さて皆さん、 今日から教会に通い始める新しいお友達が来ました。 仲良 ク君からどうぞ」 くし てあげてく

「ルークです! 将来の夢は冒険者です、 よろしくお願い します!」

笑顔が眩しい金髪のイケメンが元気よく立ち上がった。

「グレースです。私も冒険者になりたいと思ってます、 よろしく

将来キレイ系の美人になりそうな子である。 赤いショートへアで気が強そうな女の子。 ボ i イ ッシュであるが目 は パ " 1)

人気がない職業だと思っていた。

ていうか、

冒険者ってそんな人気な職業なの

か。

危険だし中低ラン

クだと賃金も低い

ローガンだ。 将来はうちの牧場を継ぐと思う。 よろ

濃紺の髪で無表情の少年。 この年齢にしては筋肉質な身体をしている。 おそらく

で鍛えられたのだろう。

クロエ。 よろしく」

薄紫の髪で猫背の女の 子。 前髪が長く顔 はよく見えない が、 整った顔立ちであることが

29 かがえる。

の村の美少女率の高さ、 おかしくないか?

口 エさん は眠そうに目をこすりつつ少しだけ話 Ļ 席に着いた瞬間には船を漕ぎはじ

ていた。

うになりたいと思ってます。 「シリウスです。 将来のことはまだ考えてませ よろしくお願 いします んが、 南 親 の狩り ŋ か手伝 13 が

なぜか将来の話をする流れになっているお陰 で、 先のことなんて全然考えて なか っ

僕が少し恥ずかし 漠然と世界を見て回りたい、

来のことを考えているとか偉すぎないか? としか思っ 7 61 なか 0 そもそも、 0) 年齢

ょ ろ

お願

「あっ、ララです……。えーと、将来は癒術師 癒術師か……心優しいララちゃにピッタリだ。 になり たい 、です

癒術は魔術と異なり癒術局が術式を独占してい る回復術だ。 怪我や病気を治す効果を発

けする

11

ため、 習得には癒術 需要は多い 嶌 0 認に のに人が足りていない状況 可が必要であ ń 生半可な勉強や修行では認可 である。 試 上験には

上級生たちも簡単な自己紹介を行い `` その後グループごとにシスタ たちが話を始め

は前世でいう担任のようなものみたい だ。

僕たちのグループに来たシスターは十代後半くらい

の青髪の女性であった。

長を決めてください。委員長になった人は今年一年、グルー 「それ ・プの皆さんへの連絡などをしてもらいます。 では皆さん よろしくお願 いします。ではまず皆さんでお話しして、グル 誰かに押し付 プを代表しての報告や、 けるのではなく、 皆さんで相 プ の委員 グル

談して決めてください ね

b 委員長というよりも連絡係みた V なも 0 か な。 責任感や連帯感を育む ため 0 0 なの か

ロエさんを起こし こてく 、れない か . か た 人とか V あとごめ

どうしよう

まず誰

やり

Vi

、る?

h

グ

ス

さ

ク

1 メンのル クが場をまとめ始める。 もうこの 1 ケ メンが委員長 で Vi 13 h

か?

は 私 以 外なら誰でも 11

眠そうなクロエさん には明ら かにやる気がな

俺は口下手だから、 すまないが上手くやれるとは思えな

たし は つ シリ ŕ スくんが 11 V) と思います

こういうのは中身大人の僕がやるのは違うと思うんだ。 ということで、 少々焦りつつイ

ケメンにそれとなく水を向けた。

「あー……僕はルーク君が向いてると思います。 人の意見を引き出したり、

るのが得意そうですし」

「えっ俺? う1 ん……シリ ウスの 方が向 13 って ね か?

イケメンはニヤニヤしながらそんなことを言 に出 した。 ح V つ、 面も 百岁 が つ 7

「……将来、 冒険者になってパーティを組む時のために、 人をまとめる経験をしておくと

役に立つんじゃないかと思うんですが、どうですか?」

確かに!! そう言われるとやりたくなってきた……!」

「じゃあ、 委員長はルー ク君ということで、 皆さん 13 いですよね?」

「あぁ、 いいぞ」

んじゃない?」

「どーでもい

三者三様であるが、 皆肯定的だ。 一人を除いては……。

「ね?」

「はう……わたしもい いと思います……

不満そうなララちゃんに念を押すと、渋々といった様子で頷いてくれた。 気持ちは嬉れ

いんだけど、ごめんね。

「決まったようですね。 聖書は、主に女神アルテミシアに関する話であった。 それでは今日はちょっとだけ聖書を読んで終わりにしましょうか」

世界を創造した女神アルテミシアが光の眷属ルミエラと炎のほか 眷属 イ グニアスを生み 出

世界に光を齎したというストー ・リーだ。

その後一時間ほどシスター この世界の魔力の源は女神アルテミシアにあると言われてお な神話である。 初級魔術教本の冒頭にもそのようなことが書いてあった記憶がある。 が聖書を解説 初日であるということもあって僕たちは b, ح 0) 世 界では非常に X

前 には帰宅したのであった。

ため、 こちら 朝日 の世界に来てから朝起きる時間が非常に早くなった。 が差しこみ勝手に目が覚めるのだ。 部屋にはカーテンなどない

前世に比べると信じられない程に健康的な生活だと言えるだろう。

なったので本当に便利だ。 生活魔術 起きるとサッと着替え、 は氷魔術を習得したお陰か、 『流水』で生み出した冷たい水で顔を洗うと気持ちよく、一発で目が覚める。 同じく起きたばかりの母さんに朝の挨拶をして裏庭へ向かう。 『流水』で出す水の温度を変えることができるように『ネーター

庭に出て軽くストレッチをした後、 薪割り りをして 13

格で売却しているため主収入にはならないが、 新は自宅で使うだけではなく、 父さんが商人へ売却もして 僕の目的はお金稼ぎではない。 いるも のだ。 鍛錬だ。 ス

に気力を纏わせる練習として、斧に気力を纏わせて薪を割ってい

気力を纏わせた斧は強度や斬れ味が増し、薪割りが効率的になる。

最初は気力の消費が激しくて数本割るとへト へトになっていたが、 今は 無駄だ 費も

えられるように なり負担も感じなくなった。

この そして朝食をとり軽く水で汗を流してから、 村の居住区域はある程度固まっており、 りが終わ った後は軽く型稽古や筋トレを行 また教会が少し離れ 同学年の皆と教会へ向かう時間を迎える。 できる頃 た場所にあるため必然 ٠ أ

的に他の子どもと同じ道を通ることになるのだ。

計算は言わずもがな前世の記憶があるため余裕である。 この 教会では読み書きや計算を学んだり外で遊んだりと、 :世界の言語の読み書きは魔術書を読み漁っているうちにできるようになっていたし、 緩る P かな時間を過ごし てい

羽目になっているのは誤算であったが……。 その お陰でシスター のご指名により、グレー スとロー ガ ン 0 脳 筋二人 組 勉強を教える

正直、大学の数学などよりこの二人に算数を教えるほうが いかし そ 電卓を作って二人に与える方が現実的 いなくら 13 よほど難儀 である。 6

昼すぎくら V に教会から帰宅し、 母さん 13 _ 声 か it Ć から家を出

母さん が狩狩 ŋ に行かない 日を、 僕は裏山での鍛錬 が日にし て いた。

器で身を守りながらでも、 裏山では 山道を走り込みながら中級魔術 いつも通り魔術を行使することができるようにする の復習を行う。 これは逃げ なが 5 訓練だ。 b

できるようになっておきたい は 13 つでもこちらを殺しに来るため、 必要なタイミングで必要な魔術を冷静に行 使

35

立ち止まら マ ル ないと魔術を放てません、 チタスクで仕事をして いた前世を考えると簡単なものだ。 では話にならな

作り近くにある村が襲われることもあるため非常に危険な魔物である。 合速やかに狩ることが推奨されている。一匹では弱いのだが、放置すると繁殖して集落をする。 人を積極的に襲う習性があり、 ゴブリンとは緑がかった肌の小人型の魔物で、前世のゲ 中を走っていると、 『魔力感知』で微弱な魔力を三つほど感知した。 特に女性や子どもが狙われることが多いため見つけた場 ム等に出てきた姿そのままだ。 ゴブリンだ。

れる程度であるため狩っても得をしない迷惑な魔物として認識されている。 一方、狩人からしたら肉は食べることができず、かろうじて体内にある魔核が少額で売

されてい 魔核には魔物が死んだ後に魔力が固定化され、武器や魔道具の材料、 ちなみに魔核とは、魔物の魔力の根源、 る。 魔物の強さに応じて売却額が変わり、 人間でいうところの心臓に近い臓器だ 冒険者や狩人にとっては貴重な収入源 燃料等として活用

れないし魔核を売るツテもないので、 僕は森に来ていることを内緒にしているため、 戦闘経験を積むためには都合のせんとう 肉がとれる魔物を狩 13 0 い相手なのだ。 7 も家 って

ゴブリンを発見し走っていくと向こうもこちらに気付いたようで、 り二匹が左右にこっそりと分かれていく。 _ 匹がその場に待機

囮の一匹に意識をひきつけて挟撃するつもりなのだろう。 「魔力感知」 で位置を把握

きる僕には全く意味がない が

ゴブリンが魔術の射程に入ったところで、 を放ち、 潜伏していた二匹を吹っ飛ばす。 すかさず が両脇の 茂みに圧縮した風

囮としての役割を果たそうと僕に走ってきていたゴブリンは二匹が吹き飛ぶ 様を見な が

らも止まることはできずに、そのまま短剣を構えながら突っ込んできた。

てくるが、それを軽くかわして脳天に鋭い氷の矢『氷矢』を放ち、片付ける やけになったゴブリンに 『雷撃』を放ち、感電させる。足がもつれつつも短剣を突き出

放ち、 そしてグギャグギャ叫びながら逃げ出そうとしている残りの二匹にも同時に 一撃で心臓を貫いた。 を

も吐いていたが、今はもう慣れたものである。 死んだゴブリンの胸をナイフで切り 開き、 魔核を回収する。 最 初 は 気持ち悪すぎて何

一瞬で燃やし尽くし、すぐに 死体はそのままにしておくと疫病を招くため、 流水 で消せば森への延焼の危険もない 『発火』で焼却しておく。 火力を上

ć

つぱり魔術は便利すぎる

37

に魔核は古代樹の下に埋めて保管して いる。 家に持ち帰って母さんに見つ か つ

その後もサー

チアンドデストロイを繰り返す。

強くなる可能性があると記述してある魔術書を見つけた。 介は先日 父さん 0 庫 を漁 つ てい たら、 魔物を討伐した者は魔物に宿る魔力を吸収して

が上昇していることが判明したのだ。 話半分に で検証してみたところ、 確かに僅かではあるが魔物を倒 た後に能力

それから僕は積極的に魔物を狩ることにした。

まぁゴブリンは増えると害しかないので、どちらにせよ狩るべきな

のだ

森を駆け回りゴブリンを大量狩猟している内に日が暮れはじめ ていた。

それにしても最近、ゴブリンの数が増えている気がする。僕も母さんも結構な数の

リンを狩っているはずなのだが、 一向に数が減る気配がない

普通のゴブリンの数というものを知らないからこれが異常なの。

か

は

分か らな

が

はかとなく嫌い な予感を抱く。

ゴブリンについ て考えつつ帰途につくと、 隣な の庭で洗濯を取り 込んでい るララち

「シリウスくん、 おかえりなさい なにしてたの?

目が合った。

「ちょっとそこら辺を走ってたんだ。 走るのが好きでさ」

「……もしかして、裏山に行ってたの……?」

ララちゃんは円らな瞳を僕から離さず、首を傾げた。

なぁ……。この確信に満ちた瞳、これは誤魔化せなそうだ。 拭ったはずの汗が、背から噴き出す。ララちゃんって抜け。 てい るようで結構鋭 V

他の人には秘密だよ?」

ふたりの秘密……? えへへへ……

なにやらトリップしてらっしゃるみたいだが、 秘密は守ってくれそうだ。 ララち

むやみに秘密を他人に話すような子ではないから、 きっと大丈夫だろう。

「シリウス、おかえり。 追及されないよう、トリップしたララちゃっぱら 夕食の準備を手伝ってくれないか?」 んをそっとしたまま玄関の扉を開

分かった! 手洗ってくるね!」

我が家では、 父さんが料理を作ってい る

というか、家事全般が父さんの仕事である。 母さん の料理は…… 独特だか

に近い空腹を感じつつ、 父さんの手伝いをする。 僕も前世では自炊をしていたので、

39 理は得意な方だ。

僕と父さん の二人で作ると、 あっという間に美味しい夕食が出来上がった。

両親と食事をしていると、父さんが僕に話を振ってきた。

「シリウス、最近よく外に遊びに行っているが教会の友達とは大分仲良く あー……ぼちぼち……かな? 勉強を教えたりするくらいには仲良くなったかな?」 なれたか?」

ごめんなさい放課後はぼっちで鍛錬しています……。

「今日はどこに行っていたの?」

「そうか、

楽しそうでなによりだ。

はははっし

母さんの目が、心なしか鋭い。 もしかして怪 しまれているのかな……。

「えーと、そこら辺をふらふらしてただけだよー」

嘘ではない。そこら辺の裏山だ。

「そう。大丈夫だとは思うけど、裏山には近づいちゃダ もしかしてどこかに巣ができ始めてるのかもしれないの。 X よ。 最近ゴブリ ゴブリンは子どもを襲うか ンが増えてるか

ら、気をつけてね」

「分かった、気をつけるよ」

確かに最近ゴブリンが多いとは思っていたけど、 巣ができつつあるのか。 やはり異常だ

ったんだな。

方が良いかもしれない 母さんも敏感になっているようだし、 の村の狩人衆が本気を出せばゴブリンの巣なんてすぐに殲滅されるだろう。 ゴブリンの巣が殲滅されるまで裏山には近づかな

それから暫くの間、 僕は自己鍛錬と魔術書 の解読を日課にすることにした。

11

©Ino Toka, Kazabana Huuka 2020